

Hello! FUJISEI

No. 189

高校への進学、さらには大学等へもという子供の思い、親としてはなんとしても叶えてやりたいものですが、その費用は思っている以上に重く家計にのしかかってきます。

●私立では理系か文系かでも差

日本政策金融公庫が「国の教育ローン」を利用した21,892世帯を対象に実施した「平成25年度 教育費負担の実態調査（有効回答数4,942世帯）」によると、高校入学から大学卒業までにかかる費用は、子供1人当たり1,055.8万円と、依然として1,000万円を超え、高止まり状態になっています。

入学者1人当たりの入学費用は、高校で51.9万円、高専・専修・各種学校が87.2万円、短大が77.1万円、大学が95.7万円となっています。私立大学の入学費用は理系で103.3万円、文系で94.0万円、国公立大学は79.6万円で、国公立大学へ入学した場合は、入学しなかった学校（私立大学等）への納付金（12.2万円）の負担が大きくなっています。

高校入学から大学卒業まで1,000万円超！

旅行・レジャー費、衣類、食費等を削り

一方、在学中の子供1人にかかる1年間の在学費用は、高校が97.6万円、高専・専修・各種学校が149.9万円、短大が143.4万円、大学が153.9万円でした。私立大学の在学費用は理系で177.3万円、文系で149.2万円と、理系で国公立大学（109.7万円）のおよそ1.6倍、文系でおよそ1.4倍となっています。その結果、高校入学から大学卒業までにかかる費用（年間平均額の累計）は、子供1人当たり1,055.8万円でした。

高校卒業後の入学先別にみると、

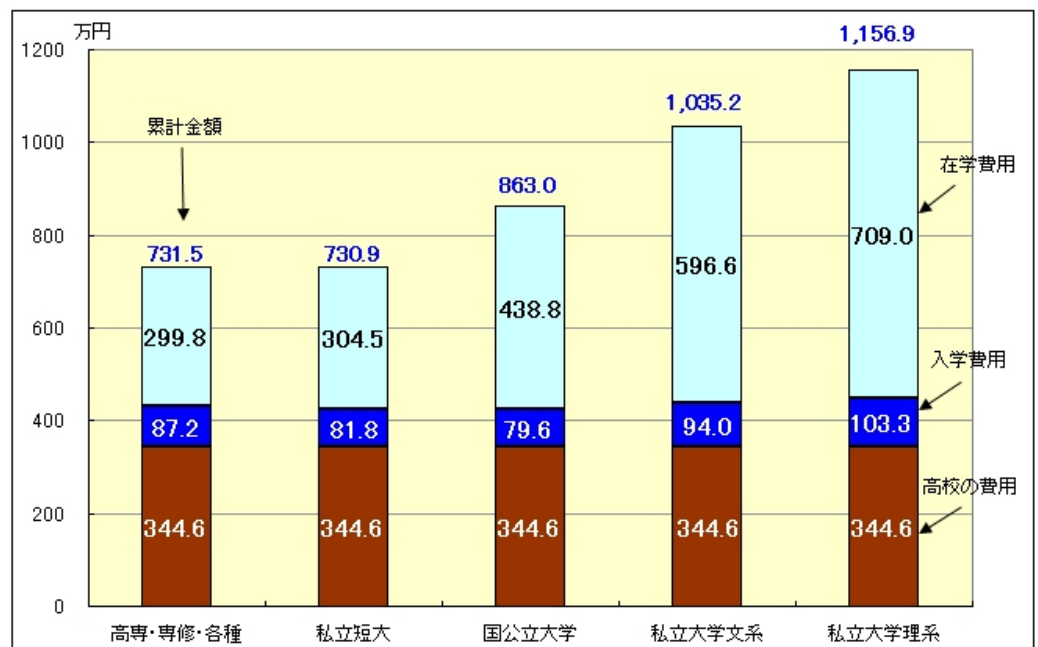
私立大学に入学した場合の累計金額は、理系で1,156.9万円、文系で1,035.2万円であるのに対し、国公立大学では863.0万円でした。

自宅外通学の場合は、仕送りの額も気になる場所です。仕送り額の年間平均は92.1万円（月額7.6万円）となっています。

教育費は、奨学金が最も多くなっていますが、旅行・レジャー費や衣類購入費や食費などを節約することで捻出しているようです。やはり、早めの準備が必要ですね。

高校卒業後の入学先別にみた卒業までに必要な費用

（子供1人当たりの費用（年間平均額の累計））



日本政策金融公庫「教育費負担の実態調査（国の教育ローン利用勤務者世帯）」（平成25年度）

（注）高校の費用は、国公立・私立を合わせた全体の平均。入学費用を含む。

高専・専修・各種学校、私立短大は、修業年限を2年として算出している。